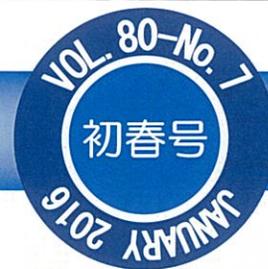


# MACHINE TOOL FORUM

マシンツール・フォーラム



**Good Tool!  
Good Machine!  
Good Factory!**

挑戦の中に  
感動ある未来を

**特集**

**“決めたことは  
責任をもって最後までやる!”**

新年あけまして  
おめでとーいございます。



旧年中は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。

年頭に今年の経営方針を掲げ当社の今年一年の心意気をぜひお伝えしたく採り上げてみました。

「決めたことは

責任をもって最後までやる!」

言葉にしてみればとても単純で至極当然であるべき姿勢だと思えますが、果たして自分で、グループで、会社で、それぞれに決めたことをすべて責任をもって最後まで実行できていたかという反省を元に初心に帰り強く意識して今年の当社の姿勢としてく思います。  
決してうわべだけにならないよう、お客様のお役に立ち、喜んで頂ける”ことを常に心がけ、実直に、そして何より誠実に努めて参ります。  
今年もどうぞよろしくお願ひします。

平成二十八年 元旦

株式会社ヤスヒラ 社員一同

## ISO 14001 への取り組み

ISO14001:2015  
への移行を考える。

ISO 9001および、14001の二〇一五年改正を受けてその取り組み方が大きく変わろうとしていきます。当社ではISO 14001の認証を二〇〇四年三月に取得してはいますが、恥ずかしながら、これまでは審査が近づくと慌てて書類を整理したものでした。整理された書類は審査の前と審査時に見るだけでそれ以外の期間は、殆ど触れることもありませんでした。また、「ISO委員会」を社内につくって運営していましたが、委員のメンバーとそうではない者に温度差が生じていたことも否めません。

言い訳となりますが、書類に書かなくても日常の業務で「環境」を意識することは社内十分に浸透し、それが自然な行動になっていると感じます。ゴミは細かく分別し節電や節水に心掛け再利用できる梱包材や緩衝材も有効利用していますし、地域清掃のボランティアも全社員が参加しています。また、当社が提案・販売する商材もより環境に配慮した製品を採り上げるようにしています。そういった意味での「環境」に配慮する気持ちは既に十分に社内浸透していると考えています。

これまでは審査のたびに指摘されるのは、書類のフッターや見出しが第三者から分り難いというような書類作成上の見直しの指導が多く、その修正に労力を割いてきました。

改正されたISOでは、どのようにISOをツールとして用いるかは企業に委ねられています。自分たちの会社の特性や会社独自の事情を考慮して仕組みを決めていくということにISOの本来の姿があります。たとえばISOの仕組みで定められる「組織の状況、リーダーシップ、計画」には、会社として行うべきこととして経営方針の確立が該当します。さらに「リスク及び機会への取り組み」は

近年重要性を増してきているリスク管理体制の確立を求めています。

当社を担当して頂いているロイドの審査官から「ひとことで簡単に言ってしまうと、一番環境に悪いのは会社を倒産させること。一番環境に良いのは、最低限の経費(資源)の消費で最大限の利益を生み出すこと」とご示唆頂き、目が覚めたように感じました。

もちろん、今まで取組んできたものから学んだことは多く、環境影響の考え方や追跡可能な書類の管理方法など、これからの取組みにも応用して行きます。これからは審査のために書類を作るのではなく、普段の会議の議事録の書式を少し工夫して用いれば経営層の指示や社内での決めたことがより徹底できたり、社内の掲示板を活用することによって気付いたことについてコミュニケーションが活かせると思います。このように、とても有効なツールとしてISOの仕組みをもっと会社全体に活用したいと思っています。

### 附属書 SLによる新しいマネジメントシステム構造

(ISO 9001 / ISO 14001改定のあらまし)

Lloyd's Register  
LRQA 解説資料より

ISOマネジメントシステムの共通テキスト(附属書 SL)は、次のように構成されています。XXXはそれぞれのマネジメントシステム分野を表します。

<b>4 組織の状況</b>	<b>7 支援</b>
4.1 組織及びその状況の理解	7.1 資源
4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解	7.2 力量
4.3 XXXマネジメントシステムの適用範囲の決定	7.3 認識
4.4 XXXマネジメントシステム	7.4 コミュニケーション
<b>5 リーダーシップ</b>	7.5 文書化した情報
5.1 リーダーシップ及びコミットメント	<b>8 運用</b>
5.2 方針	8.1 運用の計画及び管理
5.3 組織の役割、責任及び権限	<b>9 パフォーマンス評価</b>
<b>6 計画</b>	9.1 監視、測定、分析及び評価
6.1 リスク及び機会への取組み	9.2 内部監査
6.2 XXX目的及びそれを達成するための計画策定	9.3 マネジメントレビュー
	<b>10 改善</b>
	10.1 不適合及び是正処置
	10.2 継続的改善

※ ISO 14001:2004 マネジメントシステム構造の「1.適用範囲」、「2.引用規格」、「3.定義」までは従来と変わらない。LRQA ホームページで詳しい解説をご覧いただけます。

176

# 『初春に、皆様の今年の御安全を祈り上げます』



サンクコストとは、これまでに投資したコスト(金、時間、労力)のうち、どうしようが回収不能なものに近い、国や企業は、これのためにしばしば判断を誤ってきた。

典型例は公共工事。途中まで作りかけたが、事情の変化で必要性が低下した。しかし「これまでつぎ込んだ何千億円もの税金が無駄になる」と結局さらに莫大な血税を追加投入して無駄なダムを建設してしまつた(「つぎ込んだ何千億円もの税金」がサンクコスト)。

企業の設備投資もそうだ。ある企業が巨額の投資をして最新鋭の液晶工場を建設したものの、その後テレビの需要が落ち、その企業は赤字転落を余儀なくされた。本来なら早々にその工場を売却すべきだが、「もつたいたい」「景気は回復するかも」とずるずる経営判断を先延ばしし、挙句の果て経営危機にまで陥ってしまった(「液晶工場のための巨額投資」がサンクコスト)。

このように、サンクコストに束縛されると判断を誤る、言い換えれば、判断するときにサンクコストを考慮してはいけないのであるが、それが大きければ大きいほどその誘惑に抗うことが難しくなる。

サンクコストの誘惑は、行政や企業活動だけの問題ではなく、日常生活のなかにも潜んでいる。例えば、その日は競馬で負け続け、注ぎ込んだ金は二万円。もうそこで諦めておけばいいのに「最終レースで一発逆転や!」とさらに一万円つぎ込み、結局それも外れて全部で三万円もスツてしまった。これなどは競馬で負けたというより、二万円というサンクコストの誘惑に負けたといえよう。

その程度ならまだ笑って済ませられるが、安全や健康の問題となるとそういう訳にもいかない。これは筆者(注:元技術者)の実体験であるが、長時間にわたるある実験がようやく終わろうとするまさにそのとき、実験装置から小さな異音が聞こえた。にも係らず、私が非常停止ボタンを押すことを躊躇ってしまったのは、「何時間もの実験が無駄になるよ・・・」とサンクコストが誘惑してきたからである。健康についてもそうだ。いまが大口受注できるかどうかを左右する踏ん張りどころだ。だが、体調はすこぶる悪い。「ここで休んではこれまでの努力が水の泡になるぞ・・・」とサンクコストの囁きに負けて頑張った挙句に倒れてしまった、などというのもありがちな話である。

ここでひとつポイントがある。先の例だと「かすかな(異音)」、あとの例だと「少し(悪い)」だ。爆音という異常事態であれば即、非常停止ボタンを押したろう。動けないほど体調が悪ければ、そんなに悪化する前に病院に行つたはずだ。

つまり、サンクコストの誘惑の恐ろしさは、考えるゆとりのあるときにこそ忍び寄ってくるということだ。本場に緊急のときなら、普通の感性がある限り、サンクコストが誘惑してくることはない。

「サンクコストの誘惑」、これを頭の片隅に置いておくだけでも、冷静な判断への助けになる。

今年も皆様にはご安全を祈り上げます。

(酔猫)

## 生産技術セミナー

昨年末で“ヤスヒラ生産技術セミナー”は、企画をスタートして九年目、累計開催90回となりました。今までに2,565名様のお客様にご来場を頂いております。「お役に立ち喜んでいただける」ことを求めて、今年も引続き数多くの企画を立てて参ります。



▲2015.5月開催 “測定 プライベートショー” 本社社屋一階と三階を会場として終日賑わいました。



昨年、特にご好評を頂いたセミナー「測定 プライベートショー」には、一日で百四十名様超のご来場を頂きました。東京精密・ミトツヨ・オリンパス・東日製作所・チノー・オチヤセイキ・中村製作所・BLUM・NSKなどのメーカー各社が最新鋭実機を当社に持込み、『見て・触れて・識る』セミナーとしました。ご質問やテスト計測のご依頼もたくさん頂き、多くのご採用を頂きました。心より厚く御礼申し上げます。

## 生産技術セミナー

## 編集室より

新年、あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は当社にとって、大きな出来事がたくさんありました。安平亮が代表取締役社長に就任、新役員が二名就任したこと。決算を十二月に変更したこと。十三年振りにプライベートショウを開催できたこと。そしておかげさまで営業実績も良い結果を残せようであるということなど、どれをとってもとても良い一年であったと実感します。

今年私が強く取り組んでいきたいと思うことは、ISO14001の社内での活用の仕方を二〇一五年版に変更していくことです。当社は二〇〇四年三月にこの地域で業界一番に、ISO14001を認証登録しました。皆さまご承知の通り、ISOは二〇一五年改正において経営をよくなるツールとして実践活用し易い内容に大きく変化しました。今年当社はこの仕組みを活用して「決めたことは責任をもって最後まで」できるように更に良い風土を目指して行きたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

営業企画室長 中川量夫

# YMTF

## マシンツール・フォーラム

2016年1月1日号 VOL.80-No.7  
株式会社ヤスヒラ 営業企画室  
〒670-0981 姫路市西庄甲108  
TEL. 079-294-4000  
E-Mail : kikaku@yasuhira.com

## 株式会社ヤスヒラ

本社 〒670-0981 兵庫県姫路市西庄甲108  
■ 本社営業部 TEL. 079-294-4000 FAX. 079-294-4001  
■ 機械営業部 TEL. 079-294-4011 FAX. 079-294-4001  
■ 管理部 TEL. 079-294-4300 FAX. 079-294-3993  
■ FAシステム部 TEL. 079-294-6633 FAX. 079-294-3998  
■ 山形オフィス TEL / FAX. 0237-43-5811